



人間の経済

第2期 第 **45** 号 (通巻 123 号) 2006年5月7日

目次

重農主義的母親像—支配のない女性共同体の
束縛なき生活

シルビオ・ゲゼル
斎藤 由紀子 訳

(Silvio Gesell, PHYSIOKRATISCHE
MUTTERSCHAFT; Reisebericht über das
sittenlose Leben in einer akratischen
Frauengemeinschaft.)

重農主義的母親像

支配のない女性共同体の束縛なき生活

シルビオ・ゲゼル

斎藤 由紀子 訳

Silvio Gesell, *PHYSIOKRATISCHE MUTTERSCHAFT; Reisebericht über das sittenlose Leben in einer akkratischen Frauengemeinschaft*⁽¹⁾

(上記文献は、クラウス・シュミット (Klaus Schmitt) 編纂の Silvio Gesell "Marx" der Anarchisten?, Karin Kramer Verlag, 1989. に所収の一資料で、本稿はこれを基に訳出している。20年代のゲゼルのアナルコフェミニズムについては別途、論考を紹介予定 - - 編集部)

女性は経済的に男性から自立しなければならない。そうすれば、男性に選ばれるのではなく、男性を選ぶことができる。愛情の求めるまま振る舞い、今まで秘めてきた願望や欲求に素直になれる。人間の本質が影響力を発揮し、その要求を実現できる。人間の核が姿を現すようになる。そうして初めて我々は本当の人間に出会うのだ。⁽²⁾

シルビオ・ゲゼル

A 「ポスティリオンさん、見てください！ 着きましたよ。女の園、フラウエンベルクです！」

B 「ああ、ここがその、いわゆる週末コロニーですか。女性が子どもたちと住んでいて、男性は街から主に週末だけ姿を見せるという。ここで我々は、婚姻立法とか配偶関係記録簿とか、そういう結構なことが崩壊した世界を体験するというわけですね。若い女性がやってきましたよ。なんて自由な振る舞いなんだ！」

若い女性 「あまりこの辺りにはお詳しくなさそうですね。何をなさりたいか、承知しています。どうぞ、ちょうど友人たちを呼んでお茶会をするところです。そこでお望みの体験ができると思いますよ」

B 「素敵なお子さんたちですね。みんなあなたのお子さんですか？」

若い女性 「残念ながら、私はまだ子どもは必要ないんです。理想の男性も見つかってないし、こう長く見つからないと、探し続けますから、子どもどころではないんです。それにもし理想の男性が見つかって、相手が私を好きになるかどうか分からないし」

B 「まあ、この小さな谷に閉じこもっていても、選択肢も限られているでしょうし、高い理想をずっと追い求めることになるのかもしれませんね」

若い女性 「選択肢を増やすために、私は先日、世界旅行をしてきたんです。私は個々の男性のタイプだけが関心事だったのに、恋に落ちることなく戻ってきました。アジア、アフリカ、オーストラリアを見て回って、私は突然、自分の選択の幅がどんなに狭かったか気づきました。そして今、それがどれほど広がったことか。女性の選択の幅の広さは地理的な問題ではないんです」

A 「私たちは既婚者なのですが」

若い女性 「ここではだれも既婚者ではありません。男性も女性も」

A 「それは妻のいない人には素敵なことかもしれませんね」

若い女性 「ここではだれも、妻も夫も持ちません」

A 「では、もっと言葉を選んで、あなたにも分かるように言いましょう。私は自分の求める相手を既に見つけました。そしてもう探していません」

若い女性 「ここで何をお探しですか？ もしも、いえ実際にあるかもしれませんが、偶然道に立っている女性を見たときに、自分は本当に探していたものを既に見つけたのだろうか疑問がわいたら、どうしますか？目をそらすんですか？」

B 「そうなった時は、家族生活に配慮して決断するのが望ましいでしょう。私は悲劇を避けます」

若い女性 「あなたは悲劇を避けるのでしょうか。質問した私の気持

ちを避けるのですから。私は、探し求めているものを本当に見つけ出すべきなら、配慮なんてしないことが望ましいと思います。それがどんなものであっても、どれほど悲劇的であっても。

人生自体がおそらく、自然が導く悲劇の連鎖そのものだし、またそうであるべきなんです。もっとも、それは時に喜劇的かもしれませんが。私の無駄な4大陸探訪だって悲劇でした。モロッコ、エチオピア、コンゴ、チベット、アラスカで体験した失望が、なんて衝撃的だったか！」

B 「あなたが探しているもの、それはたぶん戦争によって失われたのです。私は3人の息子を失い、唯一の生き残りも失明しました。戦争が、戦争が！」

若い女性 「そう、戦争です！ 申し訳ありません、友人たちとここでしてきた議論に、突然巻き込んでしまって。でも『思いは口に出る』のです。

紹介させてください。おふたりは私たちの重農主義的世界を学びたがっていて、既によくご存知だけど分かっていない旅行者です。ベルタ、イーダ、ローザ。私はリーゼといいます。既におふたりは、こんにちの、そして永遠の議論のテーマをご存知です。でも、あれこれ考えるより、事実を知った方がいいと思うので、それぞれの境遇から何か話してもらえますか」

ベルタ 「境遇ということでしたら、7人の夫との間にもうけた7人の子どものことから始めてもよろしいかしら。

私は『ランドマン的指向の女性』に属しております。習慣へと堕した性交渉を拒絶し、男の性欲の対象にはなりません。それが、人間性を取り戻す唯一の道だと考えておりますの。力、健康、精神、美、これが私たちの目的なのでございます。そのほかのすべてが、愛の喜びも含めて、この目的に従属いたします。

私はつまり、一人の男性を求めて、彼と生活し、愛し合います。でもそれは、身ごもったとを感じるまでのことなのです。身ごもったら、私は彼から離れ、彼との性的関係を完全に断ってしまいます。ランドマンはそういう行動を.....これは私の気持ちにも合致しているのですが.....『純粋な母親像』¹と呼んでおります。ランドマンは、私の知るところでは、「純粋」という表現を「処女受胎」かどうかといった意味ではなくて、単に純粋に自然なこととして、人類

¹Landmann, *Reine Mutterschaft*, 第5版、Greifenverlag in Rudolstadt(Thüringen)

太古の生殖活動本来の生理的な行動として認識し、理解しようと意図しているのをごさいます。

友人たちのことを申し上げますと、彼女たちは、私とは違うように感じていらしたり、私ほどには盲従していないのですけれど、私はそれを『重農主義的な母親像』と呼んでおります。このことの本質、性格をよく言い当てておりますし、道徳的な意味に誤解されにくい表現ですから。

私は、できる限り健康で完璧な子孫を残すことだけを願って、それにふさわしい父親を選ぶだけです。その結果、今までに7人の夫を持ちました。経験に応じて私の目は開かれ、男性の質に対する要求がどんどん高まったのです。その積み重ねによって、私は今まで、どの夫とも永続的に結婚せずにきたのをごさいます。いずれにしても、子どもたちの父親に高い理想を求めたことで、子孫の質の向上に大きな成果を得られたと思いますし、友人たちもその正当性を認めてくれるでしょう。

もちろん、リーゼのように世界旅行をして……それは実りのないものでしたけれど……男性の選択肢を世界へと広げることが私にできていたら、もっとずっと大きな成果が上がっていたのかもしれない。でも私は、この狭い地域での成果に甘んじました。私はリーゼよりずっと田舎者なんですよ。

でも、私の子をよその子と比べると、ランドマンが重農主義的な行動の成果として予言したことへ、一步踏み出せたように思います。子どもたちは7人の父親の血を引いているというのに、同じように調和のとれた顔立ちをしておりますし、比較的快活で飾らず、ひねくれたところもありません。そして何と言っても子どもを増やすことが、合理的な仕事のような利益をもたらすんですよ。なぜって、土地代と母親年金がその分増えるんですから。

こうした発展に限界はあるでしょうけれど、当面はまだ拡大の余地があると思いますので、世間一般のみなさまが奔放に生きられますよう、私たちはこの幸せな現状を広くお知らせしたいんです。私たちのこの成果が国全体に、さらには地球全体へもたらされることが、私たちの願いなのでございます。

人口過剰の問題が移民で解決できないことは明白です。もしも世界中が人口過剰になったら、いったいどこへ移住したらいいのでしょうか。私たちはこの小さな地域で、優生学的な解決法が見つかると思っております。マルサス主義的な避妊のシステム、それによって発展した子ども1から2人のシステムの先にあるのは、間違いな

く墮落と没落です。種の保全のためには選択することこそが最も重要ですが、選択しないまますべてが失われてしまうのですから。未来の女性たちはもっときちんと選択するようになって、粘り強く集中して研究し決断するようになると私たちは信じております。

母親の欲目と願いが、子どもに投影されただけのことかもしれないかもしれませんわね。私の考えに賛同してくれる近所のみなさんも、ただ私を喜ばせようとしてくれるだけかもしれないかもしれません。何が正しいのかは、何世代も経験が積み重ねられていく中ではっきりすることでしょう」

A 「ランドマンの本は知らないわけではありません。彼は動物の生から論証していますね。完全に調和している動物に比べて、戯画のようにゆがめられた人間の姿は、なにか正常でないということを示しています。でもむしろ経済的なことについて話しませんか？

あなた方はきっとどのように経済が人間の生活の方向性に影響を与えているかご存知でしょう。ここでの素晴らしいことの多くが、経済的な制度に起因していると拝察しました。ベルタさん、あなたのやり方も、私たちの世界では経済的理由から不可能でしょう。あなたは7人の夫とその都度完全に関係を絶ったと言いましたが、男性たちは同意したんですか？それに彼らは、まったくもう子どもたちの面倒はみないのですか？父性愛のようなものがあるだろうと思うのですが。それからあなたは母親年金で足りているのですか、それとももっと別の収入があるのですか？」

ベルタ 「私は夫たちと性的な関係だけを絶ちました。悲劇的結末や殺人を避けようとするれば、それ以外考えられないのです。私は全員に対して平等に拒絶しなければなりませんのよ。そうすることでまあうまくいっているのをごさいます。

彼らはみな自分の子どもを愛しておりますわ。溺愛している人もおります。子どもたちに贈り物ですとか、本や洋服をもってきて、教育費も払ってくれますの。表面的に子ども全員に気配りする人もいますし、自分の子どもだけという人もおります。

私の収入ですが、増やすために子どもたちと内職してカゴを作っております。それからここには私の畑がありまして、7人の父親には仕事の後で来てもらっております。彼らは嫉妬に駆り立てられて驚くべき成果をあげるんですよ⁽³⁾。私と7人の子ども、7人の夫は毎年の品評会で、生産物を一番の高値で売っております。私は経済的にも悪くありませんし、模範的な生活を送っていると自信を

持って申せますわ」

- B 「あなたはきっと人口統計学的な問題もお考えなのでしょうね。すべての女性がそんな7人も子どもを産んだりしたら、その問題が必ず浮上するでしょう。この標高3メートルの土地全体が、人の力でそんな風に肥沃になるまでに、いったい何世代かかるのでしょうか？おまけにその間、母親同盟は、どんどんここへの移住をすすめるわけでしょう」

イーダ 「人口過剰問題は私たちのサークルで永続的なテーマとして議論されています。私たちはもちろん、こんにち繰り返されているような無計画による貧困に住民が陥らないよう努めていますし、選択肢が世界中に広がったことによる時間の損失がないようにも努めています。要求が高くなるほど、失う時間も多くなります。それはこの場合、出産の制限を意味します。

そこにリーゼさんがいます。彼女はまもなく30歳になりますが、相手をまだ見つけていません。もしかすると幻影を追い求めているのかもしれませんが。でも幻影によって妊娠することはありません。彼女が幸運にも高い要求を満たす相手に出会う運命であるなら、確かに彼女に特別な子どもを期待することはできますが、それでもベルタさんほどたくさん子どもを産むことはないでしょう。

リーゼさんの行動は真似される傾向にあります。目が肥えて、視野が広がるにつれて、父親の心身の質に対する要求もどんどん高まる、それが私たちの重農主義的な女性たちの社会で良いことになりつつあります。子どもの質は女性のモラルに基準を与える、というのはもう決まり文句になっています。そのような行動が一般的な慣習になるなら、そのとき、人口過剰の恐れが私たちの夢を妨げるとお思いですか？私たちは、子どもの生け贄を要求したモレクの魔人も、修道院も、マルサスも優生学戦争も乗り越えるでしょう。それはあなた方には驚くべきことでしょうね。

母親年金はいつも、卑しい者を増長させるという主張で攻撃されました。母親年金をもらう多くの女性は乳母のようなもので、思惑で動き卑しい動機で受領するに違いない。妊娠するために男を選ばず、そして卑しい者を産むだろうと。それはまったく間違っていました。母親年金は確かに女性を困窮から守るには十分ですが、それ以上のものではありません。社会で稼ぐことのできる賃金にはまるで及びません。ここのように収穫高の十分な土地では高い賃金が得られるということ、彼女たちは知っているのです。だから目先が

利いて思惑で動く女性は最新型の避妊具を使い、場合によっては墮胎するのです。そうして子どもを産まず、優生学に土地をゆだねるのです。

ベルタには7人の子どもがいます。ローザは5人、私は4人。でもこれで終わりではありませんし、リーゼもまもなく仲間に加わるでしょう。確かに4人の女性にとってはちょっと多いのですが、そのために、私たちの近くには20人以上の女性がいます。彼女たちは産まない選択をしています。人口過剰問題は解決し、私たちはモレクの魔人から永久に解放されるのです」

- B 「そんなふうには解決するなら感激なんですが、私にはまだ強い疑念があります。女性はいつも優生学と種の保全への関心でいっぱいなのではないでしょうか。このクラブはあなた方4人だけで、ほかに産まない選択をした20人が近所にいるとおっしゃいました。これはたいへん憂慮すべきことと思われます。産まない選択によって、次世代は強くて人生肯定的な母親の系統をひく人間ばかりになる、つまり、この特質が受け継がれるわけで、そうするとこの4対20の状態が逆転して、人口過剰問題が復活するかもしれません。リーゼさんのように優生学が人口抑制的に作用すれば別ですが。

しかしさしあたってこのクラブは、良い方向へ進む道に断固とした一步を踏み出しました。父親への理想は高く、選択肢は世界規模に広く。これは質の高い子どもが生まれるに違いありません。そして、そのようにして産まれた人々は、そこで生じる問題をきっと自分たちの資質にふさわしいやり方で解決するでしょう。それをもはや私たちが心配する必要はありません。そして、そのために、リーゼさんには、高い要求を絶対に放棄しないで、求めるものを見つけ出すまで探しつづけてほしいと強く願っています」

- A 「もう遅くなりました。私たちはホテルを探さなくては」

ローザ 「なぜ遠くをさまよい歩くのですか？今夜はベルタさんのところにお泊まりくださいな。母親年金は、お客ひとり泊めることもできないほどギリギリじゃないのよ。ここではどの家にも客間がありますから。まったく見知らぬ人ならホテルを探してもらいますけれど、あなた方はもうすっかり私たちの知り合いですよ。それからリーゼ、もう一人のすてきな客人を泊めたくない？」

リーゼ 「そうよ、なぜ遠くをさまよい歩くのですか？近くの幸運は、ただつかむのみ……」

B 「では、結びの言は熟慮のうえ省略、ですか？」

リーゼ 「いつも『そこ』にあるものは僥倖の対象にはならない。きょう私は10年来探してきた幸運に出会いました。それを逃さないつもりです」

イーダ 「私たちはだんだん男女仲介クラブに発展するわね」

ローザ 「肥えた目と広い視野を持って優生学を推進しようとする女性のための仲介ほど、すてきなことがある？優生学は男女の重農主義的仲介以外の何ものでもないわ」

イーダ 「この場合、男女仲介的なお手伝いはまったく必要なかったんじゃないかしら。リーゼはもうまったく救いようなく彼にポカんとみとれていたし、彼のほうもそうだったもの。彼女は5大陸の世界旅行の第一歩で探し求めたものを、故郷でついに見つけたのよ」

註

- (1) ゲゼルのユートピア的な晩年の作品『Der abgebaute Staat – Leben und Treiben in einem gesetz- und sittenlosen hochstrebenden Kulturvolk』(A. Burmeister Verlag, Berlin-Friedenau 1927)より「Eine Forschungsreise ins Land der Physiokraten」の章の一部
- (2) Silvio Gesell, Der Aufstieg des Abendlandes, Erfurt und Bern 1923.
- (3) 一妻多夫の小集団における嫉妬と競争の関係について、ゲゼルが持っているイメージは正しくない。民族学の研究によると、性的に解放された人生肯定的な文化においては、嫉妬はほとんどないのが特徴で、そこでは人々は厳しく対立して競うことはなく、指導者の压制なしに一致団結して共同作業を行う。それより特筆すべきなのは、ゲゼルがすでに1920年代に、女性の性的自由と結婚しない女性像を説き、墮胎条項218と同性愛者条項175の完全撤廃を求めたことである。それは当時の道徳的イメージと法的状態への並外れた挑発であった。

PHYSIOKRATISCHE MUTTERSCHAFT; Reisebericht über das sittenlose Leben in einer
akratischen Frauengemeinschaft

Silvio Gesell
(translated by Yukiko Saito)

Gesell Research Society Japan:

c/o Eiichi Morino 3-321 Koyasudori, Kanagawa-ku, Yokohama, 221-0021 Japan

info@grsj.org / www.grsj.org

人間の経済 第二期第45号(通巻123号) 2006年5月7日刊

編集・発行 ゲゼル研究会

221-00 1 横浜市神奈川区子安通3-321 森野榮一気付

Gesell Research Society Japan

<http://grsj.org/>

info@grsj.org

Gesell Research Society Japan all rights reserved 許可無く複製・再配布を禁ず



ゲゼル研究会